

C年復活節第3主日 ヨハネ21章1―14節

〔直訳〕

1 これらのことの後で

明らかにした 彼自身を 再び

イエスは 弟子たちに ティベリアスの海の上で。

だが彼は明らかにした このように。

2 いた 一緒に シモン・ペトロが そして デイデイモと言われるトマスが

そして ガリラヤのカナからの者ナタナエルが そして ゼベダイの者たちが

そして 彼の弟子たちの中の他の二人が。

3 言う 彼らに シモン・ペトロが、

「私は立ち去る 漁をするために」。

彼らは言う 彼に、「行く 私たちも あなたと一緒に」。

彼らは出て行った そして 彼らは乗り込んだ 舟の中に、

そして その夜において 彼らは何も捕らえなかった。

4 だが早朝にすでに なって

立っていた イエスが 岸辺のほうへ、

しかし知らなかった 弟子たちは 彼がイエスであると。

5 それで言う 彼らに イエスは、

「子たちよ、何か食べる物を あなたがたは持っていないか」

彼らは答えた 彼に、「いない」。

6 だが彼は 言った 彼らに、

「あなたがたは投げなさい 舟の右側のほうへ 網を、

そして あなたがたは見つけるだろう」。

それで彼らは投げた、

そして もはやそれを彼らは引つ張れなかった 魚の多数さから。

7 それで言う イエスが愛していたあの弟子が ペトロに、

「主で 彼はある」。

それでシモン・ペトロは 聞いて 彼は主であると

外衣を 巻き付けた、 なぜなら彼はあつた 裸で、

そして 彼は投げた 彼自身を 海の中へ、

8 だが他の弟子たちは 小舟で 来た、

なぜなら彼らはいなかった 遠く離れて 陸から

そうではなく およそ二百ペキス（離れて）、

引きずりながら 魚の網を。

9 それで彼らが上がったとき 陸のほうへ

彼らを見る 炭火が 置かれているのを

そして 食べ物が

上に置かれているのを

そして パンが。

- 10 言う 彼らに イエスは、  
「あなたがたは運びなさい 食べ物から ところの 今あなたがたが捕らえた」。
- 11 それで上がった シモン・ペトロは そして 引つ張った  
網を 陸のほうへ いっぱいのものを 百五十三の大きな魚で。  
そして それほど多くが ありながら 裂かれなかった 網が。
- 12 言う 彼らに イエスは、  
「さあ あなたがたは朝食をとりなさい」。  
だが弟子たちの誰もがあえてしなかった 彼に尋ねることを、  
「あなたは 誰で あるか」と、  
知っていて 彼は主であると。
- 13 **来る** イエスは そして **彼は取る** パンを  
そして彼は**与える** 彼らに、 そして 食べ物を 同じように。

14 このことが すでに 三度目に

明らかにされた イエスは 弟子たちに 死人の中から起こされて。

【新共同訳】

1 その後、イエスはデイベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。2 シモン・ペトロ、デイデイモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。3 シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行きなさい」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。4 既に夜が明けたころ、イエスが岸に立つておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。5 イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。7 イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとい湖に飛び込んだ。8 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペクスばかりしか離れていなかったのである。9 さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚のせてあり、パンもあった。10 イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。11 シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。12 イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いたがそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。13 イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

①構成

①a 全体の枠（1節と14節）

1節では「明らかにした（＝現れた）」が二度も使われ、14節では同じ動詞が「明らかにされた」というように、受動形で使われている。この動詞はここでは復活したイエスの顕現を表している。1節と14節はこの記事の枠となっており、この枠によって示されているように、ここではイエスの三度目の顕現を述べている。

①b 2―13節

2―13節は三つの段落に分けられるが、四つのテーマがこの三つの段落に沿って次のように展開されている。

①c シモン・ペトロ

第一段落 立ち去る

第二段落 （海に身を）投げた

第三段落 （大漁の網を）引っ張った

①d 主であると知った

第一段落 知らなかった

第二段落 主であると言う

第三段落 知って、尋ねなかった

①e 食べ物

第一段落 （持って）いない

第二段落 上に置かれている

第三段落 来て、取り、与えた

①f 網

第一段落 投げた

第二段落 引きずる

第三段落 裂かれない

②イエスの顕現（1節と14節）

②a ヨハネ21章1―14節は復活顕現物語の一つである。これと似たエピソードがルカ5章1―11節では、弟子の召命物語として伝えられている。「これらのことの後で」は異質の物語をつなぐために使われる表現である（三22、五1・14、六1、七1、一九38参照）。先行する物語との時間的間隔がどの程度であるかは明らかではない。同じく復活後の顕現を述べる20章26節では、より詳しく「八日の後」と述べる。これと比較するなら、21章の顕現物語では時間的要素がずつと後退しているのがわかる。

②b 「ティベリアスの海」はガリラヤ湖を指している。「海」と直訳したサラツサは元来、海を表す言葉だが、福音書では地名を伴うか、または単独で「ガリラヤ湖」を表す。ただし、ルカはガリラヤ湖を表す場合には、いつも「湖」を意味するギリシア語リムネーを用いる（五1・2、八22・23・33）。ティベリアス湖畔はイエスがパンを裂き、パンと魚で五千人を養った場所である（ヨハ61―15）。14節にも、イエスと弟子たちの食事が描かれている。

③「明らかにする」と直訳した語はファネロオーである。この語は「明らかにする・知らせる・示す」を意味する。

⑦イエスは「明らかにならない」ような、隠れたものはないと述べて、たとえの隠された意味が必ず明かされることを教える（マコ四22）。ヨハネ福音書ではファネロオーは、イエスの働きを通して神の救いが啓示されることを表す。イエスはカナで彼の栄光を「現し」（二11）、神がイエスに与えた人々に神の御名を「現し」（一七6）、神の業が「現れる」ために目の不自由な人をいやす（九3）。真理を行う者が光であるイエスのもとに来るのは、彼の行いが神においてなされたことが「明らかにする」ためである（三21）。

①洗礼者ヨハネはイエスがイスラエルに「現れる」ために洗礼を授けに来た（ヨハ一31）。ひそかに行動せず、世に自分をはっきり「示しなさい」と、イエスの兄弟はイエスに求める（ヨハ七4）。キリストは肉において「現れ」（一テモ三16）、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために「現れてくださった」（ヘブ九26、1ペト一20）。私たちに「現れた」キリストは永遠の命である（1ヨハ一2）。ヨハネ21章では、よみがえったイエスは弟子たちに「現れ」（1・14節、マコ一六12・14）、再臨のためにも「現れる」（コロ三4、1ペト五4など）。

### ③イエスであると知らなかった（2―6節）

①シモン・ペトロが漁のために「立ち去る」と言うと、他の弟子も彼に従う。この「立ち去る」は単純に「漁に出かける」という意味だけではなく、漁師としての元の生活に戻るということを表しているかもしれない。いずれにしても、ガリラヤ湖でのペトロたちは、エルサレムで起こったイエスの顕現（二〇19―29）をまったく知らないかのように、日常の生活を送っている。彼らは早朝まで働いたが、何もとれない。福音書が述べる漁の記事には、イエスの言葉に従って初めて大漁に恵まれるという特徴がある。

②イエスとの関わりをまだ持たない彼らは、岸に立つ人を「知らなかった」し、「食べる物」も持っていない。しかし、イエスに促されて、「網」を舟の右側に投げると、網を引けないほどの大漁に出会う。不漁から大漁への変化を引き起こしたのは、イエスの言葉である。

### ④「主だ」と言った（7―9節）

①この大漁を目の当たりにした弟子たちの中に、その人がイエスだと気づいた弟子がいる。「イエスが愛していたあの弟子」が「主だ」と気づいた直接のきっかけは、5―6節に書かれた大漁である。しかし、大漁であるなら、他の弟子たちも見て驚いたはずである。ペトロも大漁を見ているが、それだけではイエスであるとは気づいていない。ペトロがイエスと分かったのは、この弟子から「主だ」と聞いたからである。イエスと気づいた「あの弟子」はイエスから愛され、受け入れられているという信頼を持っている。イエスの愛を信じる彼は大漁という出来事に込められた「しるし」を見抜く力を与えられ、岸辺に立って指示を与えた人物の正体に気づく者となる。

②この弟子が「彼は主である」とペトロに告げると、裸であったペトロは「外衣を巻き付け」、湖に飛び込む。この「外衣を巻き付けた」が新共同訳のように「上着をまとって」の意味であれば、イエスへの尊敬心を表しているか、あるいはイエスから「立ち去ろう」とした自分の罪深さを恥じたからであろう。いずれにしても彼は一刻も早く岸辺に向かおうとして湖に飛び込む。「立ち

去る」ペトロから、彼自身を湖に「投げた」ペトロに変わる。

③しかし、他の弟子たちは「網を引きずりながら」舟で岸に着く。ペトロはイエスのもとへと急ぐが、他の弟子たちの関心は大漁の網に向けられている。陸に上がると、彼らは炭火の上に「食べ物」が置かれているのを見る。イエスは湖から上がる弟子たちの食事のために、炭火をたいて待っている。

#### ⑤あえて尋ねない弟子たち（10―13節）

①今とった魚を「運びなさい」とイエスが指示すると、ペトロが真っ先に行動を起こして舟に上がって、網を陸に引き上げる。ペトロは百五十三の大きな魚が入った網を引くが、網は「破れなかった」と書かれている。「百五十三」は当時知られていた魚の種類を表すと言われるが、この数字と考え合わせると、「破れなかった」という表現は宣教活動の豊かな成果を表しているかもしれない。身を「投げた」ペトロはあらゆる魚の入った網を「引っ張る」者になる。

②イエスに「さあ、朝食を取りなさい」と促された弟子たちもイエスに気づき、あえて尋ねようとはしない。このような表現から考えると、網を引きずりながら陸に向かった時点では、彼らはまだイエスに気づいていなかったのかもしれない。彼らは取れた魚に気を取られ、この出来事が指し示す「しるし」を理解できずにいた。しかし、食事に招かれたとき、もはや尋ねる必要がないほど明確にイエスだと分かったのである。イエスは弟子たちのもとに「来て」、パンを「取り」、食べ物と「与え」る。これらの動詞はすべて現在形である。教会が今も行っている祭儀をほめかしているのは明らかである。

#### ⑥イエスの愛に出会うとき

①最初、弟子たちは岸边に立つ人がイエスだとは気づかなかった。イエスを見ても気づかないという弟子たちの経験は、復活したイエスは肉の眼では見ることができないということを示している。そして、大漁という奇跡を見ても、その出来事が指し示す神の力に目を向けることがなければ、復活のイエスに気づくことはできない。大漁の奇跡を見て、「主だ」と気づくことのできたのは、「イエスが愛していたあの弟子」だけである。イエスの愛に信頼するとき、出来事の奥に神の力を見て、復活のイエスに出会うことができる。

②ペトロは「主だ」と聞いてイエスに気づくが、他の弟子たちがはつきりと気づくのは、イエスから「朝食を取りなさい」と招かれたときである。イエスは湖から上がる弟子たちの食事のために、炭火をたいて待っている。しかも弟子たちが今とった魚を持って来るように指示し、イエスが最初から持っていたパンと魚に加えて、弟子に振る舞う。イエスが弟子たちのために準備した食べ物に彼らはイエスの愛を見たのである。イエスの愛に出会うとき、復活したイエスに気づくことができる。

③最初にイエスに気づいたのは「イエスが愛していた」弟子であり、ペトロを除く他の弟子たちが気づいたのも、彼らのために準備された食べ物にイエスの愛を見たときである。復活したイエスに出会わせる力は、奇跡的な出来事そのものではなく、イエスが与える愛である。奇跡はこの愛を示すための「しるし」にすぎない。「しるし」を見ても気づくことのできない弟子たちのために、イエスは食べる物を準備し、命を養い守る神の愛を知らせる。イエスが「与える」パンを食べ、その愛に心が向かうとき、復活したイエスがそこにいる。